

L-FABP(尿中 L 型脂肪酸結合蛋白)のご紹介

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

この度、糖尿病性腎症、慢性腎臓病など尿細管機能障害を伴う腎疾患の早期診断に有用である L-FABP (尿中 L 型脂肪酸結合蛋白) のご紹介をさせていただきたく、下記にご案内申し上げます。 謹白

記

検査項目

項目コード	検査項目名	基準値	報告日数	再委託先
3465	L-FABP	8.4 μ g/g・Cr 以下	7 日	三菱化学メディエンス

< L-FABP の特徴 >

- ・ 腎障害が進行する前の尿細管虚血や酸化ストレスによって尿中に排出されます。
- ・ 早朝第一尿、随時尿、畜尿(酸性畜尿を除く)で測定可能です。
- ・ 食事の影響を受けず、日内変動も認めません。

< 保険収載情報 >

測定項目名 : ヒト L 型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP) (尿)

実施料 : D001 尿中特殊物質定性定量検査

13 L 型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP) (尿) 210 点

判断料 : D026 検体検査判断料

1 尿・糞便検査判断料 34 点

※ 原則として 3 か月に 1 回に限り算定。

レセプトに「尿細管機能障害の疑い」もしくは「尿細管機能障害を伴う腎疾患診断の補助」と必ず記載して下さい。

※ 医学的な必要からそれ以上算定する場合には、その詳細な理由を診療報酬明細書の摘要欄に記載して下さい。

【記載例】「(造影剤投与前後の)尿細管障害を連続してモニタリングする必要があるため」

「急性腎障害の重症化リスクの判定」など

※ 尿中微量アルブミンと同時算定(同時測定)可能です。

※ ご不明な点は担当営業までお問い合わせください。

< L-FABP の有用性 >

糖尿病性腎症

- ・ 糖尿病性腎症患者の尿中 L-FABP 値は病気の進行とともに増加し、健常者に比べて腎症早期より有意に高い値を示すことから、糖尿病性腎症の早期診断に有用です。
- ・ 腎糸球体障害の指標である尿中アルブミンと同時に測定することによって、高精度に腎症進行リスクを判別できます。

慢性腎臓病:CKD

- ・ 腎疾患の進行とともに増加し、軽快とともに減少することから、腎疾患のモニタリングに有用です。
- ・ ヒト腎生検組織の尿細管間質障害の程度と相関し、腎予後を予測する際に有用です。

急性腎障害:AKI

- ・ 尿中 L-FABP 排出量は腎の血液環流量と逆相関し、尿中 β 2-MG、尿中 α 1-MG、尿中 NAG といった尿細管障害マーカーよりも鋭敏に尿細管虚血の程度を反映します。